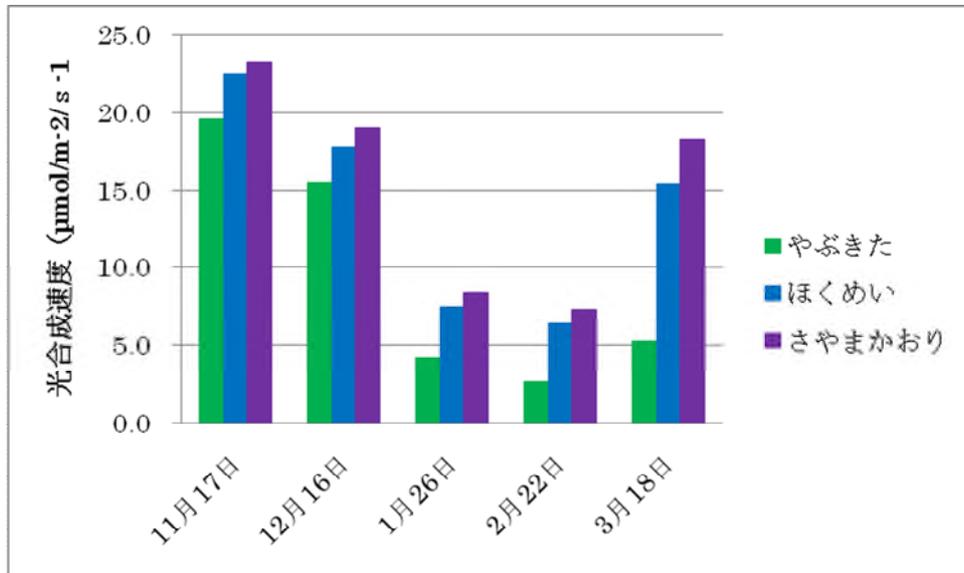


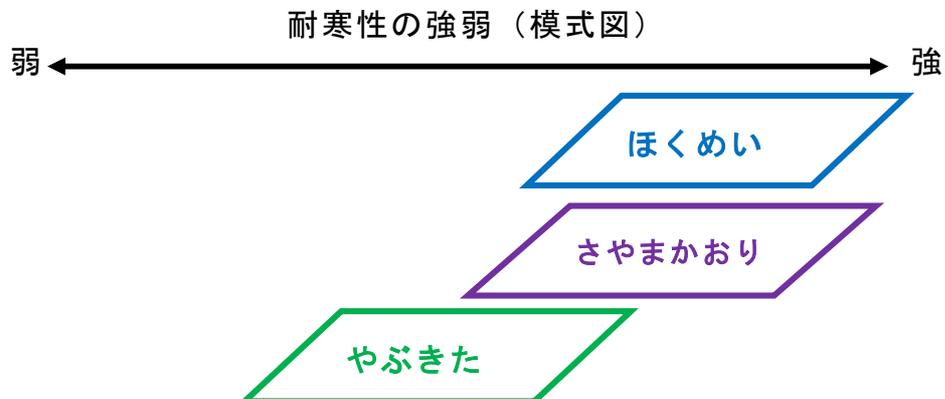
光合成能力を測って耐寒性茶の育成に生かす

本県では寒さに強い茶の品種育成を行っていますが、茶の耐寒性を直接測定することは困難です。そこで、耐寒性の異なる品種について冬期の光合成能力を測定し、耐寒性との関係を知ろうとしました。

光合成能力は、どの品種も秋期の11月に高く、その後気温の低下とともに急激に低下し、春(3月)に再び上昇するという傾向を示しました。また、耐寒性の高い‘ほくめい’‘さやまかおり’は、耐寒性の低い‘やぶきた’に比較して、全期間(秋~春)を通して光合成能力が高いこと、特に、春期に急上昇することがわかりました。光合成速度を測定することにより、寒さに強い茶の育成に役立つものと期待されます。



時期別の光合成速度 各月とも耐寒性の強い‘ほくめい’‘さやまかおり’の光合成速度が耐寒性の弱い‘やぶきた’を上回っています。



(茶業研究所 栽培担当 TEL04-2936-1351)